

銀河超特急 スリーナイン号 (銀河鉄道999)

バンダイ ノンスケールプラスチックキット
製作・文:政府開発援助

1. スリーナイン号について

銀河鉄道管理局が誇る、地球発アンドロメダ行き列車。外観は旧国鉄のC62型蒸気機関車そのままであるが、外宇宙のオーバーテクノロジーを元に設計された自律型コンピュータを搭載しており、その速さは宇宙最速とされる。(ロードショー特別編集「銀河鉄道999」参照)

2. キットについて

爆発的人気を博したヤマトメカコレクションのフォーマットを継承する形で、スリーナイン号を含めた全6種がキット化されていました。キットの仕様はいずれも先頭の機関車と戦闘車両のセットとなっています。ヤマトシリーズが箱スケールだったのに対してこのシリーズはほぼNゲージサイズで統一されており、連結器の部品が規格化されているので複数繋いで遊ぶことができるのが特徴です。なお、一部の車両はそれぞれ専用の客車4両とセットされ6両編成精密モデルとしても販売されていました。

3. 製作と塗装について

2005年頃に再販された、6両編成精密モデルの機関車部分を使用しています。今回は映画版を再現しており、戦闘車両はオミットしました。製作に関してはキット表面の繊細な凸モールドを活かして丁寧に組み立てることを目標に、市販アフターパーツ等を使用して一部モールドの復元や僅かなディテールの追加を行いました。機関車と一体整形されている炭水車は工作を容易にする為一旦切り離し、資料を基に境目をそれらしく新造しました。その際車輪からの高さが揃うように留意しましたが、機関車の一番前の二軸だけが(何故か完成見本写真でも)浮いていて不思議な感じです。なお、炭水車内にはボタン電池(CR1220)2個を内蔵しており、透明パーツで自作したヘッドランプに白色LEDの光を0.5mm径光ファイバーで導入して点灯させています。スペースの都合でスイッチは設けず、消灯時には電池と端子の間に紙等を挟んで絶縁します。

塗装はほぼガンダムカラーのファントムグレー(缶スプレーと筆塗りを併用)のみで行い、凹部にタミヤのスミ入れ塗料を流しています。ヘッドマークとプレートは映画版に準拠したものをMDプリンタで自作しました。最後に半光沢のクリアーを吹いて塗装面を保護しています。



前面



後面

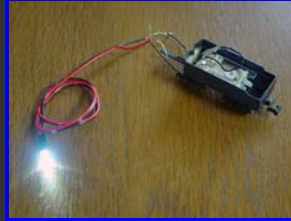
4. 製作過程



6両編成精密モデル(再販)とメカコレ(初版)のランナー比較状態。



炭水車を切り離し、機関車の運転席後端をプラ板でそれらしく新造。



白色LEDは抵抗が取り付けられているもの入手した。必要な電圧は約6V。



電飾の為に今回購入した、本体価格を遙かに凌駕する部品類。